



上島鳳山《和美人之図》
大正初期(1912~16)



菊池契月《鉄線花》
大正末期



竹内栖鳳《夏雨新霽》大正6年(1917)

涼を求めて

コレクション展2

〈特集展示〉横山大観・上村松園とその師

明治期以降、本格的に移植された西洋の写実技法の影響もあって、わが国近代の日本画家たちは伝統を基調としながらも、より自然で現実感漂う表現で人物や風景を描き出していきました。特に季節感の描出においては、画家それぞれが個性を生かした作風で情感豊かな作品を生み出し、形式的な表現に偏りがちな日本画の世界に清新な息吹を送り続けています。

今回のコレクション展は、夏季の開催に合わせて所蔵品の中から涼感を呼ぶ作品を精選し、画壇を代表する画家たちが夏の風情をどのように捉えたかをご紹介しますとするものです。「第一章：涼やかな女性像」では、くつろぎの中にも凛とした存在感を放つ夏の女性たちの姿を、「第二章：涼やかな景色」では、爽快な海景や清澄な山野の風景を、「第三章：水の中」では、群れ集う游魚の伸びやかな様子を描いた作品等を展示します。また、特集展示では、横山大観、上村松園の佳作とともに、二人がそれぞれ師表と仰いだ作家たちの作品も併せて紹介します。



下村観山《朝の旅》大正12年(1923)



横山大観《大瀛の朝》昭和16年(1941)

